

令和 6 年 6 月 6 日現在

機関番号：12611

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K12368

研究課題名（和文）カナダ・フランコフォンの言語継承と民族文化的多様性の包摂 オンタリオ州を例として

研究課題名（英文）Language Transmission and Inclusion of Ethnic Cultural Diversity in Francophone Canada - Ontario as an Example

研究代表者

小松 祐子（Komatsu, Sachiko）

お茶の水女子大学・基幹研究院・教授

研究者番号：90361295

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、カナダ・オンタリオ州のフランコフォン（仏語系住民）について、その共同体意識の変化を今日の移民統合や多文化共生という観点から検討し、彼らの言語継承と新たなアイデンティティ確立のための教育上の取組みについて、文献資料と現地調査により、現状、課題、展望を明らかにした。オンタリオ州フランコフォンの共同体意識の変化、移民の受入れ状況、アイデンティティ形成教育、フランス語教育プログラム等について、研究成果を複数の論文として発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究はこれまで日本国内でほとんど知られていないカナダにおけるマイノリティとしてのフランス語コミュニティの現状・課題・展望を明らかにすることにより、地域研究としてのカナダ研究、フランス語圏研究の発展に貢献するとともに、社会学、教育学、社会言語学、民族学、人文地理学、国際関係学などの領域へも新たな知見をもたらすものである。グローバル化の進む現代に、ローカルなコミュニティが、包摂性と多様性を尊重しつつ言語文化的アイデンティティの維持・発展を目指す試みを検討する本研究は、他の言語文化圏へも示唆を与えるものである。

研究成果の概要（英文）：This study examines the changes in the sense of community among Francophones (French-speaking residents) in Ontario, Canada, from the perspective of contemporary immigrant integration and multicultural coexistence. It aims to clarify the current situation, challenges, and prospects for educational efforts to preserve their language and establish a new identity through documentary and field research. The research findings on topics such as changes in the sense of community among Ontario's Francophones, the state of immigration, identity construction education, and French language education were published as academic papers.

研究分野：地域研究

キーワード：カナダ・フランコフォン アイデンティティ 言語継承 フランス語教育 多文化共生 文化多様性包摂

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

今日のカナダは英語とフランス語の二言語を公用語とするバイリンガル国家であるが、英語が圧倒的に優位にある。カナダ全人口に占めるフランコフォン（フランス語系住民）の割合は2016年の統計では21.9%であるが、この数字は過去100年間で10%近くも減少しており、ケベック州以外のマイノリティ環境にあるフランコフォンの減少傾向がとりわけ顕著である。積極的に移民受入れを進めるカナダにおいて、フランコフォン・コミュニティにも新規移民を受け入れることが必須の課題となっている。各地のフランコフォン・コミュニティは、かつては17世紀以降のフランス人入植者の子孫を母体とし、民族的同質性が高かったが、近年ではフランス語圏アフリカなどからの移民を多数受け入れ、共同体意識にしたいに変化が生じている。

このような状況を踏まえ、本研究では、カナダにおけるマイノリティ公用語コミュニティにおける言語継承と民族文化的多様性の課題について、オンタリオ州を例として検討することとした。オンタリオ州はカナダ国内でケベック州に次ぎ二番目のフランコフォン人口（約60万人）を抱えるが、この数は州人口の4.1%を占めるに過ぎない。オンタリオ州のフランコフォンは、2015年に400周年を祝い、歴史的蓄積や活力が（ケベック州外のカナダでは）際立っている。他方、移民流入が激しい同州では、フランコフォン旧住民と新規住民のあいだの軋轢が伝えられ、「統合」が課題となっている。

2. 研究の目的

カナダのフランコフォンは、17世紀初頭のフランス人入植以来、英国による支配を経て、400年にわたりその言語文化を守り抜いてきた。過去には高い民族的同質性と結束力を誇ったカナダ各地のフランコフォン・コミュニティにとって、近年のグローバル化や情報化の進展とそれに伴う英語の影響力増加は、言語継承に与える脅威となっている。またコミュニティ内の人口動態の変化（少子高齢化と移民の大量受入れ）に伴い、民族文化的多様性の包摂に関わる課題も増す一方である。本研究はこのような状況のなかでの、フランコフォンたちの共同体意識の変化と新たなアイデンティティ確立の努力、なかでも教育上の取組みについて、その概要・成果・課題・展望を明らかにすることを目指す。例としてオンタリオ州を取り上げる。

3. 研究の方法

本研究では、オンタリオ州フランコフォンの実態、共同体のアイデンティティ意識の変遷、移民受入れ状況、州内フランス語教育事情、教育プログラム等について、主に文献や統計等の資料をもとに精査した。パンデミック下で現地への渡航が制限されるなか、インターネット上で入手可能な政策文書、統計資料、論文、および出版物をもとに検討を行った。また複数の現地研究者によるオンライン講演を企画実行することにより知見を得た。最終年度には、現地のフランス語学校を見学し、教育関係者の聞き取り調査を実施することができた。オンタリオ州の3地域（東部、北部、北東部）を取り上げ、それぞれの状況を比較検討した。

4. 研究成果

1) オンタリオ州フランコフォンの共同体アイデンティティの変遷

オンタリオ州のフランコフォンについて、その集団の記憶に刻まれたいくつかの歴史的イベントや危機を通して、彼らの集団としてのアイデンティティがいかに変遷してきたかを明らかにするとともに、フランコフォン共同体が今日抱える課題を検討した。「仏系カナダ」から「仏系オンタリオ」を経て、今日では「オンタリオ・フランコフォニー」と自己規定する彼らが、未来を志向する開かれた集団として、民族文化的多様性の包摂を目指していることを確認した。本研究成果は、現地の具体的な教育内容を検討するための基礎的研究として重要であると考えている。

2) アイデンティティ形成教育

カナダ・フランコフォンのアイデンティティ形成教育について、その理論的基盤と歴史的経緯や背景を検討した。マイノリティ環境におけるフランス語学校ではアイデンティティ形成のための熱心な教育的取組みが展開されているが、その枠組みは構築主義の考え方に基づき、正統的周辺参加が推進されている。集団的記憶を大切にしながらも、差異を尊重し、個人を主体とした開かれたアイデンティティの構築が目指される。また、アイデンティティにかかわる教育を学校教育の使命として位置づけるだけでなく、共同体が学びの場となり、共同体自体の更新との相互構築的な関係の実現が目指されていることを明らかにすることができた。

3) カナダの二言語主義とバイリンガル教育の課題

カナダの公用語としてのフランス語の状況、二言語主義とバイリンガル教育の課題について検討を行った。結果、カナダ国民の公用語バイリンガリズムには偏りがあり、とくにアングロフォンのFLS(第二言語としてのフランス語)教育に教授法的にも制度的にも課題が多いことがわかった。制度上の二言語主義にとどまるのではなく、実際に人々が二つの言語で機能し相互コミュニケーションのなかから理解を深め、他者の文化を尊重し学ぶことで異なる文化の共存が実現することが望まれる。フランス語をカナダの不可欠な部分として位置づけ、カナダの若者がフランス語を学ぶ機会を促進することが、公用語グループ間の相互理解を育み、公用語マイノリティであるフランコフォンを価値づけるうえで重要であることが明らかとなった。

4) マイノリティ・フランコフォンの言語不安

カナダのマイノリティ・フランコフォンの言語文化にかかわる現実的問題の基底に存在する「言語不安」に注目し、検討を行った。まず、言語不安が言語規範に対する意識の問題であること、フランス語においては伝統的にフランス中心の規範意識が強く、とくに母語話者でありながら周辺的な存在において言語不安が強いことが確認された。カナダにおいてはケベックのフランス語が規範とされるが、そのケベックでは国際性が目指されていること、さらにカナダのマイノリティ・フランコフォンにおいては英語が与える地位的な不安もあることが確認され、彼らが抱える言語不安が複層的な性格をもつことが明らかになった。

言語不安は、個人の問題にとどまらず、言語コミュニティの衰退を招く恐れがあり、言語政策や教育による対策が求められる。言語不安を安心にかえるための提案を、カナダのマイノリティ・フランコフォンの若者たちが行っていることが注目される。彼らは、ネットワークを構築し、政治的パートナーシップを駆使して、より良い未来をつくるための積極的な提案を行っている。カナダのマイノリティの事例に、言語文化的マイノリティのエンパワーメントの可能性を見出すことができる。

5) 移民受け入れと統合の課題

カナダの公用語マイノリティとしてのフランコフォン共同体における移民受け入れの推進について、その背景、枠組み、実態を確認したのち、共同体による移民の文化的統合を検討した。連邦政府とフランコフォン共同体は、さまざまなパートナーと連携協力しながら、募集にはじまり社会的な統合にいたるまでの連続体として移民の定住を支援するサービスを提供し、移民受け入れ推進に努めていることが確認された。さらに、フランコフォン共同体が、新規参加者を「統合」するにとどまらず、さらに進んだ「包摂」を目指していることも理解された。彼らは、フランス語という共通の言語を包摂の基盤とし、言語内の差異や文化多様性をありのままに認め、互いに受け入れることで、共同体をさらに豊かにしようとしている。カナダ国内でマイノリティの立場におかれたフランコフォン共同体のなかで、さらに文化的マイノリティである移民の人々には、二重の周辺化の危険があるが、二言語主義・多文化主義にもとづき、フランコフォン共同体に歓迎される彼らは、言語を基盤として文化的に包摂されることで、カナダへの帰属を果たすことが可能となっている。

6) フランス語学校の歴史・課題・展望

カナダ・オンタリオ州におけるフランス語学校の歴史を理解することからはじめ、現在の制度やカリキュラムを確認し、フランス語学校が抱える課題を5点に分けて整理した。英語への同化政策のもとでの苦難の歴史を経て、勝ち取られた教育権を行使するため、今日のオンタリオ州フランコフォンは、子どもたちの質の高い学びを保証し、社会に対する説明責任を果たすためのフランス語学校制度を確立している。しかし、教員数、学校数の不足といった現実的な問題ばかりでなく、英語が支配的な社会のなかで、また子どもたちの言語文化的なバックグラウンドが多様化するなかで、フランス語話者としての言語的・文化的意識をいかに育み強化するのかという本質的課題を抱えていることが確認された。カナダのフランス語学校での実践は、包摂性と多様性を尊重しつつ、マイノリティ集団の個別の言語文化を維持・発展させる試みとして、他の言語文化圏へも示唆を与えてくれるものである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 6件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 小松祐子	4. 巻 19
2. 論文標題 マイノリティ環境にあるカナダ・フランコフォンの言語不安	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 人文科学研究	6. 最初と最後の頁 43-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 小松祐子	4. 巻 3
2. 論文標題 カナダのマイノリティ・フランコフォン共同体におけるフランコフォン移民受入れの推進 - 二言語主義・多文化主義を前提として -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 仏語圏言語文化	6. 最初と最後の頁 65-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 小松祐子	4. 巻 14
2. 論文標題 ケベックとフランコフォニーの関係（1950年代から今日まで） ジャン＝マルク・レジェの言説に注目して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ケベック研究	6. 最初と最後の頁 164-176
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 小松祐子	4. 巻 2
2. 論文標題 カナダの二言語主義とバイリンガル教育の課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 仏語圏言語文化（お茶の水女子大学）	6. 最初と最後の頁 57-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小松祐子	4. 巻 17
2. 論文標題 マイノリティ環境にあるカナダ・フランコフォンのアイデンティティ形成	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人文科学研究（お茶の水女子大学）	6. 最初と最後の頁 137-148
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小松祐子	4. 巻 1
2. 論文標題 オンタリオ州フランコフォン集団アイデンティティの史的変遷	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 仏語圏言語文化（お茶の水女子大学）	6. 最初と最後の頁 69-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 小松祐子
2. 発表標題 ケベックとフランコフォニーの関係
3. 学会等名 日本ケベック学会2022年6月研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小松祐子
2. 発表標題 言語の安心・不安について考える
3. 学会等名 第4回フランス語教授法研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小松祐子
2. 発表標題 ケベック州におけるイメージ教育の現状と課題
3. 学会等名 日本ケベック学会2022年年次大会シンポジウムパネル（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小松祐子
2. 発表標題 オンタリオ・フランコフォンの歴史とアイデンティティ
3. 学会等名 日本ケベック学会・日本カナダ学会合同研究会（オンライン）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小松祐子
2. 発表標題 カナダにおけるフランコフォンのアイデンティティ形成教育
3. 学会等名 西山教行(京都大学) 科研Bズーム講演会（日本フランス語教育学会後援）（招待講演）
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

講演会開催

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------